少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業　（平成27年度予算額（案）　27百万円（新規））

国の積極的な支援のもと、統合による魅力ある学校作りや、統合困難な地域における教育環境の充実の取組モデルを創出
⇒生み出された好事例を文部科学省が積極的に分析・発信し、少子化対応を加速化

委託研究
（200万円×6箇所程度）

少子化の課題を抱える市町村教委 → 発信

市町村教委

文部科学省

実効的な成果が挙がるよう、事業の計画段階から実施に至るまで、有識者の助力を得つつ丁寧に市町村教委・学校を支援

有識者の力を借りつつ、委託先の教育上の効果等の成果の分析・取りまとめ

創出した事例を他の自治体に積極的に発信

委託研究
（200万円×6箇所程度）

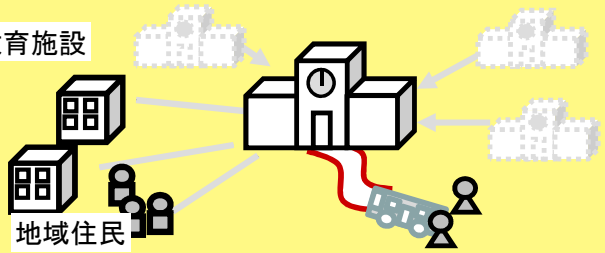
少子化の課題を抱える市町村教委 → 発信

市町村教委

①魅力的な学校統廃合事例

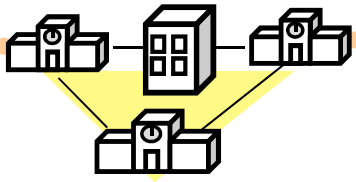
学校統廃合を通じて充実した教育環境の創出を目指す地域において、デメリットを抑えた魅力的な学校統廃合の実現。

【魅力ある学校づくりの方策例】
統合対象地域の多様な特色を学び合うカリキュラム開発、コミュニティスクールの効果的な導入、社会教育とシームレスにつながった学校教育活動・施設整備の研究など



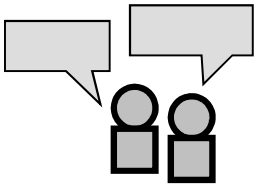
【統合により生じる課題への対応方策例】
適切な通学手段の確保・運用（スクールバス乗車時間の有効活用、長時間乗車後の脳の活性化方策、スクールバス通学に伴う子供の体力低下への対応）など

個別課題の先行事例

視察  視察

※個別の課題について、成果を上げている事例を研究し、総合的な取組に反映

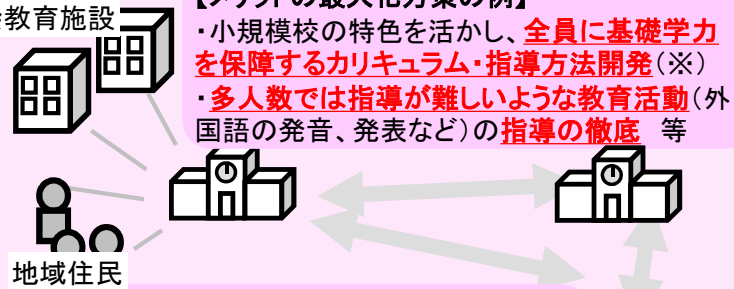
外部アドバイザー

助言  助言

※指導助言能力が高い学識経験者や、特色ある統合を成功させた関係者を想定

②小規模校を存続させる場合の教育環境の充実事例

小規模校を存続させる場合や、休校している学校を再開する場合等に、小規模校のメリットを最大化し、デメリットを最小化する方策を徹底追求。



【メリットの最大化方策の例】
・小規模校の特色を活かし、全員に基礎学力を保障するカリキュラム・指導方法開発（※）
・多人数では指導が難しいような教育活動（外国語の発音、発表など）の指導の徹底　等

【デメリットの最小化】
・学習集団の規模や学習内容の多様性を確保（複数校による相当量の合同教育活動など、社会教育における相当量の教育活動の実施、山村・漁村留学の受け入れなど）（※）

※ICTを活用した教育環境の充実については、主として人口減少社会の学校教育におけるICT活用の実証研究事業で実施。